

消防団大活躍

安城市消防団二本木分団が大活躍をされましたので町内の皆さんにもお知らせします。

6月7日(日)7:30から安城市消防署訓練場で行われた第40回安城市消防団消防操法競練会小型ポンプの部で二本木分団は第3位に入る活躍は女性の参加とともに中日新聞でも報告されました。

(第3種郵便物認可)

安城初の女性消防団員

安城市の消防団に四月、初めて女性が入団した。同市出身で二本木分団所属の会社員平野まゆみさん(三〇)＝知立市谷田町。男だけの世界に飛び込んで二月余りたち、規律正しく機敏な動作もできるようになった。「消防団の活動を多くの人に知ってもらいたい」と張り切っている。
(重村敦)

安城消防署で七日に開かれた市消防団消防操法競練会。平野さんは四人の仲間と共に小型ポンプの部に出場し、ホースをポンプにつないで電源を入れる役割をきびきびとこなし。

入団後の平日はほぼ毎晩、競練会に向けた練習に打ち込んだ。その成果が表れ、「うまくできた」と平野さん。チーム全体も放水から撤収までしっかりと連携し、二十六チーム中の三位に輝いた。

消防団との出会いは偶然だった。昨秋、地域貢献をしたいとインターネットでいろいろ探していた時、女性の消防団員を紹介するサイトに行き着いた。「これは良さそう」とすぐにメールで消防署に問い合わせ、実家のある二本木分団への入団を決めた。

両親や友達は一危なくないのか」「男ばかりの中で大丈夫なの」と心配した。最初は消防団の規律正しい動きに慣れなかったが、少しずつ覚えた。競練会に向けた練習では、他の十四人の団員が気を使い、盛り上げてくれた。内藤善幸分団長(四〇)は「大丈夫かと心配したが、とても頑張っている。他の団員への刺激にもなっている」と話す。

県によると、昨年四月現在、西三河地方で女性の消防団員がいるのは、豊田、みよし、刈谷、西尾の四市。初期消火のほか、災害時の避難所運営など消防団の役割は高まっているが、なり手が少ないのが現状だ。

平野さんは「女性が増えるとうれしい。消防団のイメージアップの手助けができれば」と話す。

◇

七日の安城市消防団消防操法競練会では、放水の速さや正確性、規律などを競った結果、小型ポンプの部で西尾分団、ポンプ車の部で小川分団がそれぞれ優勝した。

知立の会社員 平野さん 張り切る



平野さん安城市長の前で選手宣誓



小型ポンプの部



筒先担当 放水状況



内藤分団長表敬訪問(賞状・ブロンズ)



安城消防団二本木分団 全員写真



小型ポンプの部 出場選手

団員を募集中ですので皆さんも参加しましょう！